

令和4年度 第2回玉野市総合教育会議 議事概要

総合政策課作成

日時 令和5年2月16日（木）9:00～10:15 玉野市役所3階 特別会議室

出席者	【構成員】	市長	柴田 義朗
		教育長	妹尾 均
		教育長職務代理者	太宰 実千代
		教育委員	加藤 正枝
		教育委員	三宅 英次
		教育委員	二宮 崇

【事務局】 教育次長、教育総務課長、学校教育課長補佐、就学前教育課長、社会教育課長、教育総務課長補佐、政策部長、総合政策課長、総合政策課長補佐

1. 協議事項

- （1）新たな「玉野市教育大綱の策定」について
- （2）その他

2. 議事概要

市長 （市長あいさつ）

就任して1年3カ月余り経ったが、この玉野が希望を持って住み続けられるまちなれるように、色々なところで取り組みを進めている。昨日は令和5年度の予算案の発表をさせていただいた。現時点でできることはできる限り盛り込んでいこうということで、子ども医療費の無料化を高校までに拡大することや、ALTを学校に配置することを盛りこんでいる。これまでなかなか玉野市にできなかったこと、あるいは他の市に追いついたということからいうと、本当に前に進んだとは言にくいかもしれないし、目玉に乏しいというような書かれ方を新聞ではされたが、現状の玉野市としては頑張った予算だと思っている。教育についても、地域を元気にしていく、あるいは持続可能にしていくための大きな柱であり、その教育をしっかりいいものにして魅力のあるものにしていくことが、若い世代が希望を持って住み続けられる大きな要素になると思っている。特に今、世界が激変している中で、これから子どもたち、若い人たちに求められる教育を皆さんとしっかり考えていかないといけないと思っている。今日は新しい玉野市の教育大綱をつくろうということで色々な意見をいただきたい。今後の玉野市の教育の大きな方針を決めるということになるので、皆さんの忌憚のない意見をいただきたいと思っている。

市長 議事（1）「新たな玉野市教育大綱の策定」について、総合政策課より説明をお願い

いしたい。

総合政策課長

(資料「玉野市教育大綱(案)」に沿って説明)

教育大綱の今後の策定のスケジュールでは、本日の総合教育会議の協議を経て3月の玉野市議会の総務文教委員会に報告することになっている。総合計画は3月の議会で議決を得ることになっており、この議決の終了後に教育大綱を公表したいと考えている。

市長

皆さんからの意見・質問等あればお願いします。

三宅委員

基本理念のTAMANOがアルファベットで表記されているのでなぜかと思ったが、先ほど説明でグローバルなまち、人になるということをイメージしていると聞き、よくわかった。かなとローマ字と漢字を使って玉野と表記があったので意図されているところがあるかと思っていた。基本理念について伺いたい。基本理念の内容については全く異存はないが、括弧書きが非常に多く一度読んだだけではなかなか理解しづらい文面があるのではないかと感じた。括弧書きというのは、最低限の説明の時に補足で使うぐらいで、できるだけ誰が読んでもそうだと分かる平易な文章の方が親しみが湧いていいのではないと思う。総合計画でこれを定めているので、これについては変えられないというのであれば仕方がないがどうか。また基本方針2「心豊かな人生を送れる文化が薫るまち」について、気になったところが2点ある。1点目は「グローバル化、デジタル化に対応した特色ある教育」とあるが、特色あるというのは違うのではないかと感じた。グローバル化、デジタル化が進む中で、小学校では英語が教科になったり、プログラミング教育といったものが総合的な学習や教科で取り入れられている。GIGAスクール構想もかなり進んだと思う。子どもたちがそういう時代にタブレットで学習に取り組んでいる。学校訪問で授業を拝見しても、子どもたちが生き生きとそれを使いこなして授業をしているというのは、非常にいいことだと感じた。ただ、「特色ある」というのは他と違って特に目立つという意味なので、いらないのではないかと感じている。入れるとしたら「時代の進展に対応した教育」くらいのほうがよいのではないかと感じる。「将来にわたって自己実現を目指すために必要な力を育みます」とあるが、その中で力というのは非常に広い意味でなので、少し限定して資質・能力という言葉でもいいのではないかと感じた。もう1点が基本方針の「充実した子育て環境の提供」ということで、「保育園等の就学前教育施設の安定的な運営に努め」とあるが、この安定的な運営というのはどんな運営のことなのか理解できなかった。待機児童の解消や最低限の園児数の確保、保育士の確保などの意味であるのか教えていただきたい。次に基本理念にある「幅広く子育て支援をおこないます」とあるが、総合計画では今後の取り組みとして4点ほど上げている。その中で「多様な保育サービスの提供」で園庭解放や一時預かり、病児保育などがあり保護者にとっては大変ありがたい取組だと思うが、それに加えて保護者が一番思っている、感じることは、我が子の保育はきちんとしてもらえるだろうかということだと思う。以前に園児虐待のことも問題になった。玉野では全くないと思っているが、玉野の保育園・子ども園では、園長さんからよく聞く言葉だが保育士の配置基準というのは、それがあってなかなか保育士の方も多忙

だと聞いている。そういう配置基準にとらわれずに保育士の人数を園児のクラスの人数によって増やしていただければ大変ありがたいと思う。そうすることで、ここに書いてあるように保育の質の向上にもつながっていくのではないかなと思う。保育サービスの提供に加えて、保護者のニーズに応える取り組みというのが必要かなと思う。今年度、ちどり保育園やいろいろなこども園・保育園の視察に行かせていただいたが、ちどり保育園で保育が終わった後、子ども達の中に習い事する子どもが何人かおり、施設を提供してそこで習い事が終わったら保護者が迎えに来るという、非常に時間のロスがなくて保護者も助かって好評だという話を聞いた。今までの、公立だからできない私立だからできるというような考えは、もう合わないのではないかなと思っている。もちろん公立の保育が私立の保育に劣っているとは思っていない。それぞれいいところはあると思うが、もうそういう壁を取り払って、私立の保育で取り入れているようなこともしっかり取り組む努力をしていただければありがたいと思う。これからは柔軟な対応が必要な時代になっているのではないかなと思っている。

市長

最初の基本理念の文章では括弧書きが確かに多く読みづらい。括弧を取るだけでおさまらないか。

総合政策課長

基本理念のところについては、もともと総合計画の将来像から取ってきている。総合計画の将来像では、この基本理念の中の「人を育てる」やその後の学校教育、生涯学習などで「人が育つ」、そして愛着のある「人を育てる」と、こういった括弧のところについては補足説明のように取り扱いしており、総合計画では文字を小さめにしている。少し読みやすいように括弧の部分小さくするなど、一目見て読みやすいような形で書かせていただければと考えている。

市長

これを残して小さくするということか。

総合政策課長

総合計画の将来像の方を見ていただくと、見やすくなっているのがわかると思う。この協議の中で取った方がいいという話であれば、そのような形にする。総合計画では18ページで、この教育大綱の基本理念ほどは読みにくくないと思う。

加藤委員

「子育てのしやすい環境の整備（人を育てる）」は括弧の中は要らないのではないかな。次の「様々な学びの輪の充実（学校教育生涯学習など人が育つなど）」。その次にこの「」で人が育つ（まちづくり）であるので、そこにつなげたい思いはわかるが、無理やりの感が否めず、三宅委員が言われるようにこの括弧があるから文章がちぎれてより分かりにくくなっている。この括弧を取って読んでみた方がスムーズにつながっていくように思う。

市長

同じことを言ってるようになるか。少し言葉を補って具体的に書いてるということはあるが、読みづらいのは確かに基本的なところはフラットな文章で流すのが一般的なので、あまりいろいろ書かない方がすっきりする。必要な部分は少し言葉を補って趣旨を変えない範囲で読みやすくするというようにさせてもらってよいかな。

「」は残してあとは取るようにしたい。先ほどの「グローバル化、デジタル化に対応した特色ある教育」で、確かにグローバルとデジタル化と言ってさらに特色があるというのは重複しているようだが、この点はどうか。

総合政策課長

ご指摘のあったのが「グローバル化、デジタル化に対応した特色のある教育」の特色というところが、違和感があるということかと思う。それを「時代の進展に対応した教育」に変えた方がいいのではないかということだったが、玉野市としても様々な特色のある教育をしてると考えているところではある。そういった形で、総合計画でもこういった記載をさせていただいており、教育大綱では先ほどの提案での「時代の進展に対応した教育」に変えたいという話だったが、教育大綱についてはこの教育会議で協議するということになっているので、その協議を踏まえて修正するかどうかになると思う。

市長

特色ある教育というのもデジタル化に対応して、さらに特色のある教育というか、国が進めるGIGAスクール構想などをやるだけではなくそこからさらに世界水準に達するくらいのをやるというように受け止められる可能性はあると思うが、そこを目指すという話になるか。

加藤委員

グローバル化とデジタル化は現在当たり前のことで、それをこのように特別なことのように書く方が遅れていると思う。デジタル化などは普通であるし、グローバル化に関しては玉野市は瀬戸内国際芸術祭があるので、他市に比べて玉野市民がグローバル化へ向かう機会は多いかもしれないが、今はグローバル化もデジタル化も普通のことなので、あえてこのように持ってきて、さらに特色のあるという表記にするのであれば、本当にプログラミングが出来るような子どもを育てるような環境にするとか、学校に入ったら英語だけで過ごす学校を作るというように進んでほしいので、今の玉野市では無理かと思う。三宅委員が言われていたタブレットを子どもたちが上手に使っているのを学校訪問で見たということに関して、先日訪問したときはタブレットを見て折り紙をしていた。私はそれを見て大変マイナスに感じた。子どもたちひとりひとりがタブレットを見て自分たちで折っていたが、そんなことであれば家でもできる。やはり学校の先生が大きな紙を持ってきて、黒板に貼って、このようにして折ると教えて、グループに分かれてそれをみんなで話し合いながら折っていくのが学校生活だと思っている。厳しいことを申し上げるが、タブレットで学校の先生の怠慢、そして子どもの孤立化が今の使い方では進んでいるように感じて、今後の教育に不安を覚えた。これは次の教育委員会でもう少しきちんと話して、学校の先生方の認識も、タブレットを使える子ども今はもう育てなくていい。私たちよりも子どもたちはタブレットを上手に使うので、このデジタル化というのはもう少し上手に使ってほしいと思った。特色あるというのであればもっと特色をつけてほしい。

政策部長

先ほど言われた特色ある教育について、玉野市であればグローバル化のところでいうと、瀬戸内国際芸術祭での玉野スチューデントガイドといったところが充分特色のある取り組みだと思うので、ここは残してもいいと思った。総合計画でもこういう書き方をしており、総合計画の方はこのまま残させてもらおうと思う。大綱の方も残してもいいかと思うが、みなさんの意見はどうか。

加藤委員

残すのであればスチューデントプログラムにしても、一部の子どもたちだけでなくもっと広めていただきたいし、何人かの人がおこなっているからそれでやってい

政策部長
加藤委員

直島の小学校で英語教育を拝見したが、瀬戸芸の芸術作品を子どもたちが外国の方にとってどうやって説明するかというのを授業でやっていた。自分たちで例えば黄色いカボチャであれば、黄色いカボチャを子どもたちが相談して英語にするというような教育をしていたので、それが特色ある教育であって、一部の生徒がスチューデントプログラムに参加しているのは決して特色あるとは言えないと思う。

総合計画との整合ということもあり、内容としてはさらに特色ある教育を目指すというところでよいか。

二宮委員

市長

三宅委員

教育長

市長

加藤委員

市長

加藤委員

市長

各委員

市長

就学前教育課長

市長

5

ば経営的な安定のようなことは当たり前なので、何を言っているのかと思われるのではない。今言われたような趣旨になるが、他にいい言葉があれば差し替えてもいいと思う。

三宅委員
市長

そういう意味で使われているというのがわかればよい。

意見として、保護者が感じているような保育がきちんとされているかどうかや配置基準にとらわれず必要な保育士を増やしていくということがあったが、その辺をどう表現するのか。また保護者のニーズに応えるような習い事の話もあったがどうか。

三宅委員

言葉を入れるのではなく、そういう時代になってきていることを考えながら、施策を実践していかなければならないという要望なので、ここでは中身を変えてほしいという意味ではない。これから柔軟な対応をしていく時代になったのではないかと思ったので述べさせていただいた。

教育長

三宅委員が言われたように、幅広く子育て支援という言葉でくくれると思うが、具体的なものは教育行政重点施策の中に盛り込めるので、今言われたようなことは、この重点施策の中で具体的に施策として考えるとしてよいと思う。

市長

承知した。

三宅委員

いい表現だと思ったのが、大綱3ページの2-①教育環境の充実でハード面の充実ということが挙げられているが、これを読みながら米百俵の精神を思い出した。ぜひ教育に予算をしっかりとつけてほしいと感じた。総合計画の現状と課題に「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく」という記述があるが、非常によい記述だと感じた。多様な子どもたちというのはどんな子どもたちかと考えたが、いろいろな子どもたちがいる。障害のある子どももいるし、不登校の子どももいるし、発達障害の子どももいる。いろいろな子どもたちを誰ひとり取り残さないというのは義務教育の本質だと思っている。是非最大限の配慮をして、こういう教育を実践していただければありがたいと思った。

市長

ここは総合計画の現状と課題のところに書いてあるところで、ハード面によった書き方になっているが、それにあえて加えるとすれば小中学校の適正規模化・適正配置のことを書くのかと思ったが、この中に入れるのかどうかというのはあると思う。

加藤委員

先ほどの保育園のところで、ずっと読んで最後が「幅広く子育て支援をおこないます」とあり、上でも「子育てと仕事の両立を支援します」と少し上からの目線のように感じてしまう。「保護者と協力のもと」とか就学前なので何か保護者がこの文章の中に「親子が安心して暮らしていける子育て環境を整えます」と、これもいいとは思いますが保護者も巻き込んであげるような表現がどこかに少しあると、もう少し温かみが出てくると思った。全部が上からの目線で、これだけしてあげるというような感じがあったので、三宅委員が言われた習い事など保護者のニーズということで、ニーズという言葉を入れると何でも答えてくれるのかというようになるのでそれはよくないと思うが、「関係を密にし」といった言葉があると、幼い子をお願いする親としてはもう少し安心かと思った。大変難しいので丸投げ状態になってしまう

が。

市長 支援で「整えます」などの表現が上からの感じがするが、表現は少し工夫できる
出来るようであれば変えてみてもよい。

加藤委員 玉野市の保育園、こども園も大変よい取り組みをしていると思う。一時保育にし
ても待機児童がないことも誇ってよいことだと思ひ、一時預かりなどは私も本当
に助かったし、パートさんも助かっていて、いい取り組みをしていると思う。もっ
と脚光を浴びるようにお願いしたい。2-②で「中学校区一貫教育の系統的な指導と
質の高い教育により」とあるが、玉野市全ての中学校が一貫教育をしているわけ
ではないと思うがどうか。

教育長 中学校区一貫教育は全市でやっている。

加藤委員 承知した。それと適正規模化との整合性は大丈夫なのかと思った。

教育長 これは現在のことで、適正規模化の検討が進み、その枠組みなどが変わってくる
とやり方自体も当然変わってくると思う。現時点ではこの表現になる。

市長 中学校区一貫教育というのは一つの売りになっている。

教育長 部分的には中学校区一貫教育というのはいろいろなところにあるが、市内の全中
学校区で取り組んでいるという事例は少ない。

太宰委員 それを受けてだが、市全体で中学校区一貫教育がおこなわれているということ
を、もっと強くアピールすべきではないだろうか。他でもやっているという話もあ
たが、玉野市の教育としてこれを推し進めているということ、もう一つ強くアピ
ールできる文章であったほうがいいと思う。それが全市でおこなわれているとい
うことを知らない方もたくさんいると思うので、特色ある教育を目指しているとい
うところからも強くアピールすべきではないかと思う。先日こども学級やおさらい会
などを見学させていただいたり、幼稚園などの学校施設を訪問させていただいた時
に、中学校区一貫教育という中での9年間のベクトル合わせができるというのは、と
てもありがたいことだと伺った。それプラス就学前教育も含めた幼小中の一貫教育
というのは、11年から12年間の繋がりのある教育が玉野市ではきちんとできるとい
うことは、すごくいいことなのではないか感じたので、そこをぜひアピールしてい
ただきたいと思う。

市長 中学校区一貫教育にはこういうメリットがある、といったことはもっと言えるの
か。

教育長 中学校区で話し合いながら、うちの中学校区ではこういう子どもに育てていくと
いったことになる。中学校区の中で園、小学校、中学校があるので、小学校ではこ
ういったものを目指す、中学校ではこういったものを目指すといったことになる、
その関連が崩れたり違うことを目標にしたりというようなことも起こってしま
う。園から中学校まで同じような目標を掲げて教育していこうというのが、中学校
区一貫教育になる。

市長 もう少しアピールできるような書き方にするなどは考えられるか。

加藤委員 これはこれでいいと思うが、中学校区一貫教育だと今後の適正規模化にマイナス
が出てくるとは思うので、中学校区一貫教育というよりも玉野市がすべて系統的な

指導としての高い教育という文章にできないか。中学校区一貫教育は取り組めている学校区とそうでない学校が私が見てきたところでもあるので、そういうのではなく「中学校一貫教育を通して全市が一つとなるような系統的な指導と質の高い教育により」といったようなものにできないか。中学校区一貫教育をあまり立てると、次に進むのが難しくなると思う、幼稚園・保育園などはむしろ学区といったものを取っ払ってしまった方がいいと考えている。ちどり保育園のようにいろいろな所から子どもたちが来て、またどこかでまた合ったねといった形で出会えるような、全市を挙げての方がよい。あまり中学校区一貫教育をうったてのようにはしないほうがいいと感じている。

教育長

玉野市全体も、もちろん目指す子ども像というのはあるが、それぞれの小学校や中学校が個別に目標を持ってやるようになって何年にもなる。それがせめて中学校区で同じような目標を持って子どもを育てようというところから、中学校区一貫教育が始まっている。加藤委員がご指摘のように今後配置の問題があれば当然そこで形は変わると思うが、ただ現在で学校区を取り払うというのは、玉野市として目指すものというのも現在ではあるので、もうしばらくこのかたちでやらせていただいて、考えるべき時にはまた新たな考え方ですすめていきたい。

市長

この表現はこのままでよいか。

各委員

それでよい。

市長

ここの部分で思ったのが、「夢を育むキャリア教育」というのが書いてあるが、市内の企業の方によく聞くのは本当に人手不足で、若い人がいてもどんどん外に出てしまうということだった。その要因の一つとして、市内にどんな企業があって、どんな働き方をしている、こんな魅力があるというのがきちんと伝わっていないことがあるのではないかなと思う。いろいろな働く所はあるが、みんな人手不足ということもあるので、もっと小中学生の社会見学などのいろいろな企業を見てもらって、それが高校卒業してすぐ就職するケースもあるが、大学に行ったとしてもまた帰ってきて就職するところの選択肢に入るような見せ方をもっとしていくべきではないかなと思っている。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で工場見学なども止まっているという話があるが、もう少し地元の企業に目が向くようなことを積極的にやってほしいと思っている。

三宅委員

市長が言われたように、子どもたちがその工場などいろいろな施設を見学する体験活動は非常に大切だと思う。目指すまちの姿によく出てくる「郷土への誇りや愛着を持ち」ということがあるが、そういうものを育てるためにはどんなことをしたらいいのかなと思うが、やはり実際に目で見て人と話をしながら体験をするというのが一番大切かなと思う。もう20年以上前になるが子どもたちの体験活動を支援するというので、学校教育とは別で子どもたちを連れて三井造船へ見学に行ったことがある。その時は地球深部探査船「ちきゅう」を作っていて、まだ完成する前に見せていただいて説明をしていただいた。子どもたちが目を輝かせて、この船が世界中の海で資源を探しに行ったり海底を調査するのがすごいと見ていた。うちのお父さんや近所の人たちも三井造船で働いていて、そういう人たちが作った船が世界中で

活躍しているという非常に夢のある話になった。そういう体験活動は社会科だけでなく自然体験もしっかりやっていただきたいと思った。

市長

郷土への誇りと言っているが、なぜそういったものが生まれるかというところから誇りや愛情につながると思う。そういう感動する体験をしないといけないと思うが、そのためには実際に目で見て感じる必要があるで、そういったいいものがたくさんある。三井E&Sのエンジンはシェアが6割でこれはすごいことだが、なかなかそういうことが伝わっていないのかネガティブな話ばかりになる。ナйка塩業でも国内の塩のほとんどを瀬戸内海からとった海水から作っているというのはすごいことだ。そういうことをもっと子どもたちに伝えることは誇りにつながると思うし、それを伝える教育をしてほしいと思う。ここに書き込むかは別にして、そういうことをやっていただきたいと思っている。

教育長

キャリア教育には今の話にあったような職業に結びついたり、いろいろな考え方があると思うが、夢や目標を持っているという子たちの割合が意識調査では低い。普段きつとそういったことを考えているはずだが、実際に調査をしてみると少し低めになってしまうという部分で、それを補うのがこのキャリア教育だと思う。夢を育むキャリア教育という書き方自体には夢自体に特化しているように捉えられるので、若干補足するのであれば、夢を育み〇〇するキャリア教育、というような形で言葉を補うことはできると思う。私としてはどうしてもこの夢というのは入れてほしいと思うが、追記するか重点施策の方でそれを補って、こういうことでキャリア教育に取り組んでいくというような内容を入れるなども可能かと思っている。

市長

さらに言えば夢や志というのも大事かと思う。夢は自分自身のためにということだが、志というのは社会のために、自分がこの社会でどういう役割を果たすかということも含めて考えるという話を聞いた。なのでそういう言葉があってもいいのかと思う。

太宰委員

市長の話にもあったが玉野を愛する、郷土を愛することからも、以前の会議でも出たが豊かな自然があるというのが当たり前になっているところがあると思う。デジタル化やIT化によって、タブレットを使いこなしたりするのもこれからの時代を生きて行くためには子ども達に大事なことだろうが、その反面、新型コロナウイルス感染症の影響でなかなか外遊びもできなかったりということがあっても、海に行けばキラキラ光る海が見えて潮の香りを感じたり、春先になれば芽吹く山の匂いを感じられたりと、当たり前になっているが玉野には自然が残ってる。その自然を活用して、玉野に誇りを持てる、玉野はやはりいい、大学で外に出てもまた素晴らしい企業があるからここに帰ってきて、子育て環境も充実して本当にいいところなんだと、実体験や社会的な体験を通して子どもたちが感じられるような教育であってほしいと感じている。

加藤委員

工場見学だけでなく玉野は東西44キロの海岸線に面している。海との生活は玉野では胸上漁港から日比港まであり、三井造船にしても海なくしては、船なくしては生きていけない。今はないが、たまの港フェスティバルでいろいろな船がきた時

は、玉野市民でない市外の友人たちはどうしても行きたい、来ている船に乗ってみたい、海があんなに近くにあってフェリーが出て行くのを見るだけで気持ちがスッキリすると言われるが、来場客でも玉野市民はあまり多くない。練習船が来て練習船の学生さんと話をすると、その海に対する愛着も船に対する愛着も感じる。今の物流が車に変わってきているが、ニュースで見たが運転手の労働時間を削減するためにもう一度船の役割が見直されている。たくさんの荷物を運ぶために、田井港にもよく来ているRORO船から新しい自動車がどんどん降りてくる。それは一括して沢山運べるからで、そういう海と船と人との歴史というのをこの地では学ぶことができる。RORO船が着くときや客船「飛鳥」が出て行くときの見送り、他の港では自分たちの港を愛するがために子どもたちをつれてお母さんたちが見送りに来てくれる。そういうことで自分たちのまちにある港を愛したり、太宰委員が言われたように本当に素晴らしいものがいっぱいあるので、タブレットで折り紙を見るんだったら港に行って船を見るぐらいの授業があってもいい。それが玉野への愛着につながるのではないかと思う。プラスチックごみの回収も玉野の人はあまりしていないが岡山の方が一生懸命やっているのでおかしいと思っている。

三宅委員

玉野に愛着を持つということと関係があるが、大綱2-④芸術文化活動の推進のところ「子どもたちが芸術・文化に触れ体験できる機会を提供します」とある。今までも玉野でもトップアーティスト招へい事業などいろいろなことで、子どもたちがそういうように触れているが、玉野市の文化財については大人もそうだが行ったことあるというのが30%くらいだったと思う。そういうことに関しては玉野をもっと知らないという愛着がわからない。私も庄内に住んでいて、秀天の石橋は市の文化財であることを先日初めて知った。常山城跡もそうだが、そういう史跡や文化財を子どもたちにもっと知って見てほしい。先日の教育委員会でも出たが、例えば大人も子ども楽しめるような地図を作っている。玉野にはこんな文化財や史跡があるというのをもっとアピールしてもいいと思った。ただ文化財というのは個人の所有もあって公開できないは別にして、文化財に限らず有名なもの、例えば王子が岳のニコニコ岩などを子ども達に知ってもらうことで、玉野に愛着を持つ子どもが増えていくのかと思う。

市長

まさにそうで、文化財のこともあまり書いてないが、芸術・文化、伝統芸能や伝統行事などの文化資産もこういうところも含めれると思う。

社会教育課長

秀天の石橋は市の文化財ではなく県の文化財となっている。地図については毎年新しいものを作って、小学校3年生に渡している。ただ編集、中身を監修しているのは文化財保護委員会です。大人の目で作ってしまうので、非常に難しいものになっている。現在、できれば小学校3年生が見てわかるような柔らかいものにしていこうという話をしている。配布するのは今後も続けていこうと思っている。また、これもなかなかこちらの宣伝がうまくいかなかったと思うが、過去5年間くらい5地区に分けて、いわゆる地域の文化財講座という形でこの地域の特色のある文化財を紹介するという講座をおこなってきている。一周して次は何をしようかというところになっている。また今後はあるところとタイアップして文化財、先ほど言われたいわゆる

指定文化財だけではなく、私の考える文化財はこれなんだということを、フォトコンテストなどをおこなって広く知らせていくのがよいのではないかということなど、新しい取り組みもこれから進めていこう考えている。

市長

本当に文化財は玉野の財産で、そこから誇りが生まれたり、また観光の拠点、目的地になることもあるので、大切に保存して知ってもらおうということは非常に大事だと思う。小学校3年生に配布というのは教育的な配慮があるのか。もう少し高学年の方がいいのではないか。

社会教育課長

3年生から歴史や地域の学習が始まる。

市長

秀天の石橋のよさなども3年生にも分るだろうか。

教育長

自分たちのまちを調べたりするのが3年生で、3、4年生で地域の学習をする。

市長

3年生に限らずもっと上の学年にも伝えてもいいという気はする。大綱なので言葉が抽象的であったりしてるところもあるが、総合計画とセットということで考えればそちらに書いてあるのでよいと思う。いただいた意見につきましては修正すべきところはするというので、事務局の方に一任させてもらってよいか。

各委員

(承認)

市長

議事(2)その他についてなにかあるか

各委員

(特になし)

市長

本日は大綱を協議していただいたので、この方向で進めさせていただきたい。

以上